

2024年1月7日（日）「主を目の前に置いて生きる」

詩編 16 編

- 1 ミクタム。ダビデの詩。神よ、私を守ってください。私はあなたのもとに逃れました。
- 2 私は主に言います。「あなたこそ、わが主。あなたのほかに幸いはありません」と。
- 3 この地の聖なる者らに、私の喜ぶ力ある者すべてに言う。
- 4 「他の神を追う者は苦しみを増すがよい。私は、血を注ぐ彼らの供え物を献げず、その名も口にしない」と。
- 5 主はわが受くべき分、わが杯。あなたこそ、私のくじを決める方。
- 6 測り縄は美しい地に落ち、私は輝かしい相続地を受けました。
- 7 諭してくださる主をたたえよう。夜ごと、はらわたが私を戒める。
- 8 私は絶えず目の前に主を置く。主が右におられ、私は揺らぐことがない。
- 9 それゆえ、私の心は喜び、心の底から喜び躍り、この身もまた安らかに住まう。
- 10 あなたは私の魂を陰府に捨て置かず、あなたに忠実な者に滅びの穴を見せず、
- 11 命の道を私に示されます。御前には満ち溢れる喜びが、右の手には麗しさが永遠にありますように。

新年あけましておめでとうございます。2024年という年が明け、当教会としましては発足して丸30年が経過したことになります。三十周年記念誌の発行に向けて準備を進めてまいりましたが、皆様のご協力を得て実現へと導かれ、新たな時代へむけての第一歩を踏み出しました。移りゆく世にあって、私たちには変わることのない神のことばが与えられています。今年も七日ごとに巡ってくる主の日を大切に、「絶えず目の前に主を置いて」歩んでまいりましょう。今日与えられている詩編16編は私の愛唱詩編の一つですが、特に8節の聖句を日々思い起こしながら生活しています。「主を目の前に置いて生きる」とはどのようなことか、全体から探っていきたいと思います。

タイトルに「ミクタム」という言葉が出てきます。その意味するところは分かっていませんが、「隠された祈り」「重要な意味を持ったもの」などの説のほか、音楽用語ではないかとも言われています。著者はダビデとされていますが、もしそうだとするならハープの演奏に乗せて読まれた詩であることも想像されます。

#### ① 主を隠れ場とする

神よ、私を守ってください。私はあなたのもとに逃れました。私は主に言います。「あなたこそ、わが主。あなたのほかに幸いはありません」と。（16:1-2）

ここで詩人が神に対して抱いているイメージは、「逃れ場」「隠れ場」です。シェルターののように、危険から身を守る洞穴のように、主の守りの御手に包まれることを日々の体験として

いました。詩編にはこのような描写が多く、例えば91編には本編と非常に通ずる内容が出てきます。

**いと高き方を隠れ場とする者は、全能者の陰に宿る。私は主に申し上げる。わが逃れ場、わが城、わが神、わが頼みとする方」と。(91:1-2)**

まるで、雌鳥が雛を翼で覆って守るかのように、神はご自分の民を守っておられると。そのような「主の守り」をいつも心に留めて歩むことが、「主を目の前に置いて生きる」ということの第一の側面です。

## ② 同じ信仰を持つ聖徒と共に歩む

**この地の聖なる者らに、私の喜ぶ力ある者すべてに言う。「他の神を追う者は苦しみを増すがよい。私は、血を注ぐ彼らの供え物を献げず、その名も口にしない」と。(16:3-4)**

ここで詩人は、同じ信仰を持つ仲間たちに、ただ一人の神を認め続けることを強く勧めています。旧約イスラエルの民は、周辺のカナン人の神々に心をなびかせる誘惑に常に晒されていたようです。実に多くの箇所、偶像礼拝に陥って災いを身に招いた民の姿が描かれています。なぜそんなにも心が揺るがされてしまうのか。それはおそらく、悪魔に魂を売った者たちの繁栄を目にしたからでしょう。「血を注ぐ彼らの供え物」とあるように、バアル、モロク、ケモンなどの異教においては、実際に人身を犠牲としてささげていたと言われます。カナン人の宗教儀式の一つに子どもの生き血をすするというおぞましいものがあり、現代においても誘拐や人身売買によって犠牲になっている多くの子どもたちがいるようです。このような習慣はヤハウエなる神の忌み嫌われるところであり、イスラエル人は、血を飲んだり、血を含んだものを食べたりすることを固く禁じられていました(レビ7:26, 27, 17:10-14, 19:26、申命12:23, 24, 15:23)。

日本人はその民族性ゆえに、あらゆる宗教と共存してきた嫌いがあります。アニミズム的な精神的土壌の上で、儒教、仏教、キリスト教などの外来宗教を受け入れ、日本化し、一貫性のない宗教的アイデンティティを形成してきました。そのような曖昧な宗教観に囲まれながら、ただ一人の神を信ずる信仰へと導かれたことは幸いです。ヤハウエなる神のみを信じる時、私たちの人格もまた一貫したものとなるでしょう。ことばと行為とにおいて一致した神を認め、心に受け入れる時、私たちの生き方もまたそのように変えられていくのです。「主を目の前に置いて生きる」ということの第二の側面はここにあります。

## ③ 主を相続地とする

**主はわが受くべき分、わが杯。あなたこそ、私のくじを決める方。測り縄は麗しい地に落ち、私は輝かしい相続地を受けました。諭してくださる主をたたえよう。夜ごと、はらわたが私を戒める。私は絶えず目の前に主を置く。主が右におられ、私は揺らぐことがない。(16:5-8)**

イスラエル民族は、エジプトでの奴隷生活から解放されてカナンの地に帰還したとき、土着民との戦いを経て部族ごとに土地が割り当てられました。ダン、アシェル、ナフタリ、マナセ、ゼブルン、イッサカル、エフライム、ガド、ベニヤミン、ルベン、ユダ、シメオンと、

十二部族に分割されたのですが、レビ族には相続地がなく、代わりに主ご自身が分前であると言われました。

主はアロンに言われた。「あなたはイスラエルの人々の土地の中に相続地を持つてはならない。彼らの間にあなたの割り当て地があつてはならない。私こそが、イスラエルの人々の間であなたの受けるべき取り分であり、相続分である。私はレビの子らに、イスラエルにおけるすべての十分の一を相続分として与える。これは彼らの仕事、すなわち彼らが携わる会見の幕屋の仕事に対する報酬である。(民数 18:20-21)

アロンはレビ族の代表です。この箇所は一見、レビ族だけ差別されているようにも見えますがそうではなく、この部族が他の部族とは違って直接神に仕える役割を担っているため、約束の地で耕作することが禁じられたのです。では、彼らはどのように食っていけばよかつたかということ、神への献げ物の一部が与えられることによって家族を養うことができたのです。「十分の一」とは、民が神にささげたもののうちの一部のことであつて、言わば土地の割当てを受けた他の部族全体で神への直接献身者を支えたのです。他の部族の人々が十分に割くことのできない時間を使って、レビ人は御言葉を学び、礼拝奉仕を司つたのです。

詩人がここで「主はわが受くべき分」と言っているのは、主に直接仕える喜びを言い表しているのでしょう。主に養われる幸いを嘯み締めていたのです。「測り縄」とは、土地の測量に使う縄のことで、主からの恵みは確実に正確に分け与えられることを表現しています。私たちは各々仕事を持って生きていますが、主に依り頼むとき必要な収入が与えられるとの約束と読むことができるでしょう。神の養いに委ねるといふことは一見何の保障もないところを信頼するようではありますが、実はこれ以上に安心な人生はないということ詩人は伝えようとしているのです。時折違ふ何かに頼りたくなる誘惑を覚えることもあつたのでしょう。そのようなとき、詩人は「夜ごと、はらわたが私を戒める」と、夜の静かな時間に祈りをささげ、自分の生き方を問い直したのです。

#### ④ 自分の永遠を委ねる

それゆえ、私の心は喜び、心の底から喜び躍り、この身もまた安らかに住まう。あなたは私の魂を陰府に捨て置かず、あなたに忠実な者に滅びの穴を見せず、命の道を私に示されませ。御前には満ち溢れる喜びが、右の手には麗しさが永遠にありますように。(16:9-11)

「私の魂を陰府に捨て置かず」とか「滅びの穴を見せず」などの表現は、何らか命に関わる病から詩人が癒やされたことを伝えているのではないかという説もありますが、彼の魂が永遠なる神との交わりの中にあつたという意味にも取れそうです。この箇所何度か「喜び」という言葉が使われているところから、詩人が主と共に歩むときに常に喜びに満たされていたことが読み取れます。「私の心は喜び」「心の底から喜び躍り」「御前には満ち溢れる喜び」と繰り返されます。その他にも、「安らか」「麗しさ」といった表現が伴い、詩人を絶えず覆つてやまなかつた神からの平安が現代の読者にも時空を超えて伝えられています。「主を目の前に置いて生きる」ときに伴う第四の側面は、「喜び」と「平安」でした。

私たちも、この詩人が信じ依り頼んだと同じ神と共に歩むことがゆるされています。主を隠れ場とし、同じ信仰を持つ仲間と共に歩み、収入面においても依り頼み、永遠のいのちを受けているところから来る喜びと平安に満たされて生きていきたい。これらを総括して、「主を目の前に置いて生きる」ということを、今日ここに強調したいと思います。2024年という年は厳しい現実が待ち受けていると思われませんが、主の養いを信じて歩いていきたいと思えます。

#### 【祈り】

私たちを守り養い給う天の父なる神様。2024年最初の礼拝において、詩編16編の御言葉に耳を傾けました。一人ひとりが自分の目の前に主を置いて歩むことができるよう、導いてください。どんなときにもあなたの御手の中で守り、一貫した信仰生活を実現させ、生活を養い、喜びと平安で満たしててください。あらゆる時代の聖徒と共におられるあなたが、この会衆をも捉えていてくださいますように。

#### 【祝祷】

仰ぎ願わくは、  
荒野で40年間民を養ったように、現代に生きる聖徒をも守り育み給う、父なる神の愛、  
ことばと行為において一貫し、弟子たちの生き方をも同様に導き給う、主イエス・キリストの恵み、  
如何なる時代にあっても、主と共にある喜びと平安で満たし給う、聖霊の親しき交わりが、  
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。